



大田区探歩 〈3〉

いけがみほんもんじ

池上本門寺

池上本門寺は、日蓮聖人が今から約 720 年前の弘安 5 年 (1282) 10 月 13 日、61 歳で入滅 (臨終) された霊跡。正面の階段を登ると、重層の仁王門がある。三門や山門とも称される。中心伽藍へ入るための重要な門で、三種の解脱 (さとり) を求める者だけが通れる。三解脱門の略である。現在の仁王尊は、総高 3.6 メートル。文化勲章受賞の



日蓮聖人像



仁王門

彫刻家・円鍔勝三氏の雄渾な木造現代彫刻である。親子連れの子供は、「こわいよ」と親の手にすがる。無人おみくじ売りの、いたずら防止の門番もしている。

毎年 10 月 11 日～ 13 日の三日間、日蓮聖人の遺徳を偲ぶ「お会式法要」が行われる。ことに 12 日の夜は、約 30 万人の参詣者でにぎわい、周辺は車両通行止めになり、ピンクの桜花の枝垂れる萬燈が太鼓のリズムで通りを練り歩く。萬燈が桜花で飾られるのは日蓮上人が没したとき、季節はずれの桜が咲いたという伝説による。



仁王尊



五重塔

「歴史を作った人々の眠る聖地」

「開創 **1282** 年。東京の歴史を語る寺」池上本門寺のキャッチフレーズ。

ここで、歴史愛好家は墓所のありかを探って、新しい発見に挑む人も少なくない。たとえば、かつて秀吉や徳川吉宗の登場する大河ドラマで、徳川家康の側室「お万の方」の墓所は不明であると解説されたことがある。それが池上本門寺に存在するのを、郷土史家が明らかにし、話題になった。



幸田露伴の墓

カ人レスラーを次々とマットに沈め、街頭テレビに日本人大衆を釘付けにし、熱狂させた。まさにぱっと咲いて、はらりと散る桜こそ、力道山にふさわしいかも知れない。

また、**37** 歳で惜しまれて亡くなった名優・市川雷蔵の墓所がある。五重塔と散歩道をへだてた向かい側にあり、墓石には「太田家之墓」とあるので、気がつきにくいが、今でも献花する人が絶えないので、新しい献花を目当てに探せそうである。

雪の降る日に出かけてみよう、かすかに読経の響く静寂のなか、カラスが斑雪の参道に黒い影を落とし、ここに墨絵の世界が出現する、白い衣装をまとった五重の塔を背景に、市川雷蔵の扮した「眠狂四郎」の円月殺法が煌らめくと、**500** 年の時がタイム・スリップする。歴史を語る寺は、歴史が触れる寺になる。

筆者：城南印刷工芸株式会社 山中 邦夫

「五重塔」の幸田露伴と娘で「流れる」の作者・幸田文親子の墓も **1608** 年に建立された五重塔の下にあり、また朝鮮半島からやってきて、敗戦後の日本人民衆の心を鼓舞した力道山の墓もある。力道山は、昭和 **28** 年（**1953** 年）に始まったテレビ放送の最初のスターであった。大相撲からプロレスラーへと転向し、アメリカ武者修行から帰国すると、日本にプロレスを普及させた。必殺技の「空手チョップ」で大きいアメリ



市川雷蔵の墓（卒塔婆に雷蔵の文字が見える）